

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第3回総会議事要旨

- 1 日時：令和2年9月15日(火) 11時00分～12時10分
- 2 場所：オンライン (Web 会議システム Zoom)
- 3 出席者：林 (会長)、甘利 (副会長)、伊藤 (清水副会長代理)、佐波、柳生、飯野、長瀬、舟橋 (星川委員代理)、鎌田、緒方、Li、遠藤、岡島、石濱
陪席者：西田 (防災科学技術研究所)、松本 (〃)、倉谷 (〃)、丹羽 (〃)、平岡 (セコム)、前田 (DNP)、見目 (DRI ジャパン)、畑山 (産業技術総合研究所)、山本 (電力中央研究所/筑波大学)、安部 (日本自動車研究所/筑波大学)、藤原 (防災科学技術所/筑波大学)、島岡 (セコム/筑波大学)、糸井川 (筑波大学)、鈴木勉 (〃)、梅本 (〃)、面 (〃)、片岸 (〃)、西出 (〃)、古川 (〃)、秋元 (〃)、木下 (〃)、齊藤 (〃)、鈴木研悟 (〃)、高安 (〃)、斉藤 (〃)、大塚 (〃)、秋葉 (〃)、鈴木 (〃)、根本 (〃)

(敬称略)

4 議事

議事に先立ち、林会長から、開会の辞が述べられた。

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

- (1) 令和2年度総会・運営委員会委員の変更及び役員の任期満了に伴う選出について
遠藤委員から、資料1-1～1-2に基づき、今年度の委員の変更について説明があり、原案のとおり承認され、新委員である鎌田委員より挨拶があった。
また、資料1-3のコンソーシアム規約第7条に基づき、令和2年4月1日に遡って役員の任期満了に伴う選出を行う旨の説明があり、次のとおり承認された。
 - 会長 (コンソーシアム規約第7条第2項)：林 春男 (防災科学技術研究所)
 - 副会長 (コンソーシアム規約第7条第3項)：甘利 康文 (セコム)、遠藤 靖典 (筑波大学)
- (2) コンソーシアムと協力機関による合同ミーティングの開催について
遠藤副会長から、資料2-1～2-2に基づき、昨年度卓越大学院プログラム申請に際して新たに協力を得た協力機関とのミーティングについて、開催概要の説明があり、原案のとおり承認された。
続いて、林会長からコンソーシアムの各参画機関に向けて、積極的な参加及び発表を頂きたい旨の依頼があった。また、次のとおり質疑応答があった。

<主な質疑応答内容> 青字：回答者 (遠藤副会長)

(林会長) 海外機関が参加するとのことだが、発表及び資料は日本語のみで良いのか。

→ 日本語で構わない。同時通訳等の手配を行う予定である。

(柳生委員) 各機関からの発表時間は何分程度か。

→ 5～10分程度を想定している。

(畑山氏) 発表者は、本コンソーシアムの運営委員や役職者でなくても問題ないか。

→ 運営委員にはぜひ出席いただきたいが、発表者については発表内容に適切な方であればどなたでも構わない。

(3) 公開シンポジウムの開催について

遠藤副会長から、資料 2-1, 2-4 に基づき、公開シンポジウム開催概要の説明があり、原案のとおり承認された。また、講演者について、次のとおり提案及び質疑応答があった。

＜主な提案・質疑応答内容＞ 青字：回答者（遠藤副会長）

（長瀬委員） BCM については、DRI ジャパンから話が出来るかと思う。

→ ぜひ前向きに検討したい。

（林会長） 感染症の専門家については、筑波大学で手配いただけるか。

→ 筑波大学で手配する予定である。

(4) レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約の改正について

遠藤副会長から、資料 3-1～3-4 に基づき、コンソーシアム規約の改正（案）について説明があり、意見交換の結果、次のとおり、一部が承認された。

- ・ 会員種別「正会員・準会員」を設けることが承認された（改正案第 4 条、第 7 条～10 条関連）。
- ・ 総会・運営委員会委員に「会長の指名する者」を追加することが承認された（改正案第 8 条第 4 項・第 9 条第 4 項関連）。これに伴い、コンソーシアム事務局長の石濱悟氏が、第 8 条第 4 項(2)・第 9 条第 4 項(2)に基づく委員となることが承認された。

第 5 条に関連する入会申込書については、正会員・準会員で分けたほうが良いとの提案があり、正会員の申込書は従前どおり、準会員の申込書は別途作成することとなった。

以上を踏まえ、筑波大学で入会申込書を含めて規約改正（案）の修正を行い、後日メール審議により委員に諮ることとなった。

また、海外機関にも参画いただくにあたり、規約の英語フォーマットを整備したほうが良いとの提案があり、筑波大学で検討することとなった。

(5) 令和 2 年度年間活動計画の見直しについて

遠藤副会長から、資料 4-1～4-2 に基づき、今年度の年間活動計画を見直す旨の説明があり、原案のとおり承認された。

(6) インターンシッププログラムに関する申合せの改正について

遠藤副会長から、資料 5-1～5-3 に基づき、筑波大学大学院の改組（リスク工学専攻→リスク・レジリエンス工学学位プログラム）により、申合せを一部改正する必要がある旨の説明があり、原案のとおり承認された。

【報告事項】

(1) 第 12 回幹事会（R2.4.7）について

遠藤副会長から、資料 6 に基づき、第 12 回幹事会の議事について報告があった。

(2) 第 13 回幹事会（R2.8.21）について

遠藤副会長から、資料 7 に基づき、第 13 回幹事会の議事について報告があった。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【報告事項】

(1) 卓越大学院プログラムの審査結果について

遠藤副会長から、令和2年度卓越大学院プログラム申請「協働大学院方式によるリスクレジリエンス学位プログラム」が不採択となった旨の報告とともに、プログラム構想は可能な限り実現していく予定であるため、引き続きコンソーシアム参画機関に協力を賜りたい旨の依頼があった。

(2) 協働大学院教員の令和2年度指導体制について

岡島委員から、資料8に基づき、協働大学院方式の本格始動に伴い、今年度から協働大学院教員が学生指導に携わっている旨の報告とともに、先日の9月期入試（推薦）において、協働大学院教員を主指導教員に希望し合格した受験者が1名いる旨の情報共有があった。

(3) 秋学期における授業の実施について

岡島委員から、資料9-1～9-2に基づき、学位プログラムの秋学期の授業について、一部対面授業も可能であるものの、原則オンラインで実施するとの方針が確認された。また、協働大学院教員・非常勤講師が担当する授業については、世話人教員を通じて調整している旨の報告があった。

(4) その他

・リスク工学研究会（RERM）への講演協力依頼について

岡島委員から、昨年度 DNP 佐波氏の「博士のキャリアパス」についての講演が大変好評だったことから、今年度以降も、コンソーシアム参画機関所属の方に講演依頼をさせて頂くので協力を賜りたい旨の依頼があった。

以上